

これまでの検討内容と対応状況について

1. 第一回検討会における主な論点と対応状況について

第一回検討会における主な論点と第二回検討会における対応状況について表 1-1 に整理した。

表 1-1 第一回検討会における主な論点と対応状況

第一回検討会における議題	第一回検討会における主な論点	論点の概要	対応状況
1. 光化学オキシダント調査検討について	(1)シミュレーションモデルの再現性の目標水準の設定	<ul style="list-style-type: none"> シミュレーションモデルの最終的な目的は、それを用いて対策検討を行うことであるため、対策検討のために使うことができると考えられるモデルの再現性の目標水準を設定した。 	<ul style="list-style-type: none"> 作業部会において、改善作業を実施したシミュレーションモデルについて、第一回検討会で提示した再現性の目標水準に対する達成状況を確認した。
	(2)現時点のシミュレーションモデルの性能の把握	<ul style="list-style-type: none"> 構築したシミュレーションモデルについて、(1)で設定した再現性の目標水準の達成状況の観点から評価を行い、現時点のシミュレーションモデルの性能を把握する必要がある。 	
2. 平成 26 年度の解析結果について	(3)解析に用いる格子間隔 (60km と 10km)	<ul style="list-style-type: none"> 地域スケールでの様々な排出対策に関する検討を行うためには、適切な空間分解能を持ったモデルでシミュレーションを行う必要があるが、平成 26 年度の解析結果から判断すると、60km のモデルの精度が高い傾向がみられたため、まず 60km のモデルを使って検討を行うことを提案した。 60km と 10km のどちらのモデルを用いて解析を進めていくか、根拠を明らかにする必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 60km と 10km の精度の比較を(1)の再現性の目標水準の達成状況の点から実施した。その結果、10km 計算値 (2009 年関東領域) の精度が高い傾向がみられたため、今年度は、広域スケールを対象とした解析は 60km 格子で実施し、地域的なスケールを対象とした解析は、10km 格子 (2009 年関東領域) で行うこととした。
3.平成 27 年度の解析計画について	(4)対策立案に資するようなアウトプットの提示について	<ul style="list-style-type: none"> 削減目標や目標達成のための対策シナリオについて検討する上で、議論のベースになるようなアウトプットを今年度の解析で提示することが望ましいと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は、光化学オキシダント濃度に影響を及ぼすと考えられる要因について、3つの視点からの解析および NOx・VOC 排出量の削減効果の検討 (感度解析の実施) を行うことを考えている。

2. 平成 27 年度の調査検討項目について

平成 27 年度の調査検討項目は以下に示した[1]～[4]の 4 項目からなる。平成 26 年度に実施した調査検討項目と併せて平成 27 年度調査検討項目について図 2-1 に整理した。なお、第一回検討会後に新たに設定した項目については網掛けで示した。また、図 2-2 にこれまでの解析の経緯と来年度の解析の進め方について整理した図を示した。

- [1] シミュレーションモデルの構築・改善
- [2] シミュレーションモデルを用いた国内の光化学オキシダント濃度に影響を与えると推測された要因の解析
- [3] NO_x および VOC 排出量の削減効果の検討（感度解析の実施）
- [4] 今後の光化学オキシダント対策の方針の検討

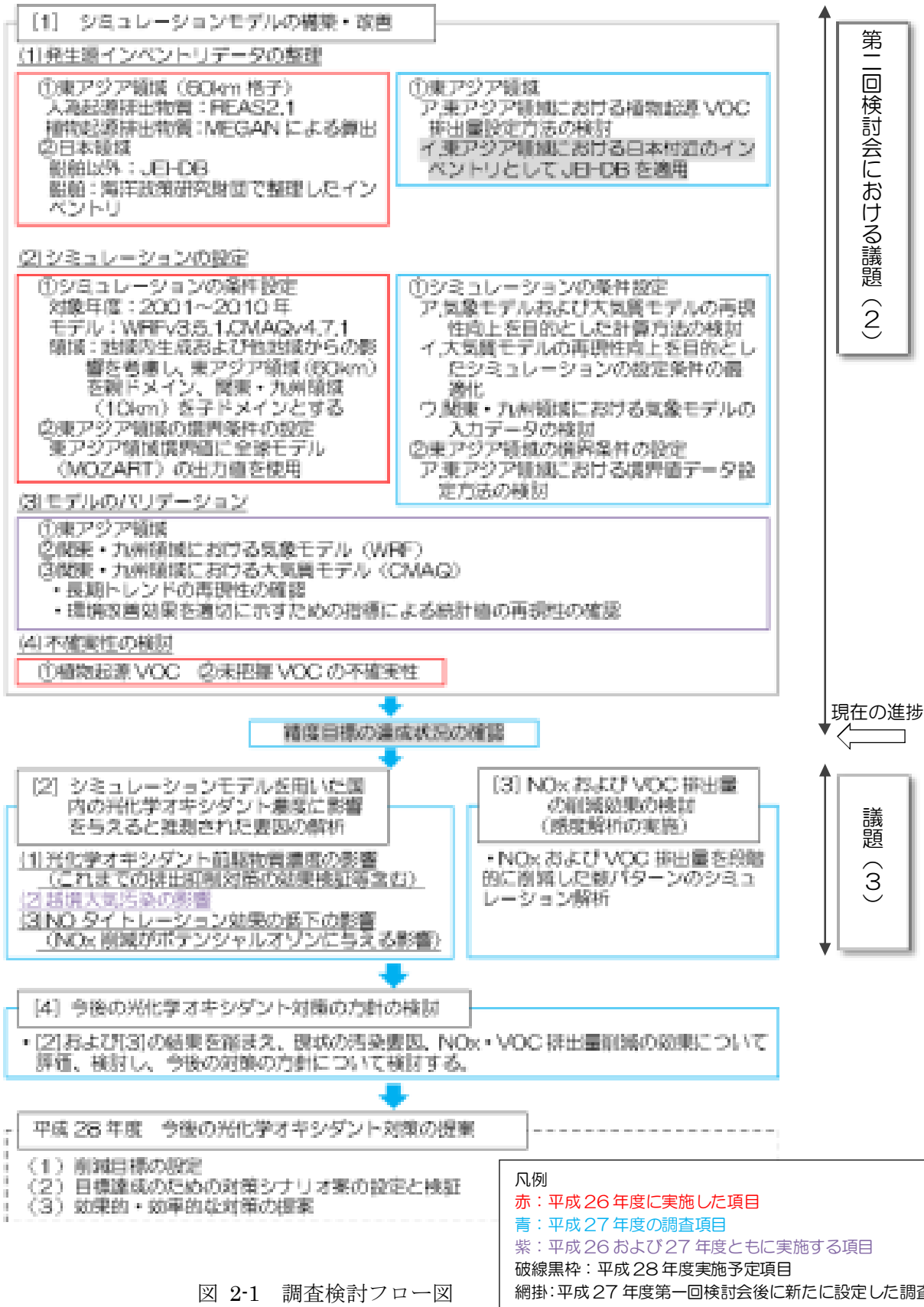


図 2-1 調査検討フロー図

3. 作業部会の開催状況と今後の予定

作業部会の開催状況と今後の予定について図 3-1 に示した。

再現性向上のためのシミュレーションモデルの設定条件の確認および計算結果等について詳細な検討を行った結果、当初、作業部会は 2 回実施する予定であったが、これまでに 4 回実施した。

なお、今後の予定に関して、第一回検討会において検討会としての報告書は次年度以降作成することが確認されたため、報告書（案）の検討のために設定した第 4 回検討会は開催しないこととしたい。

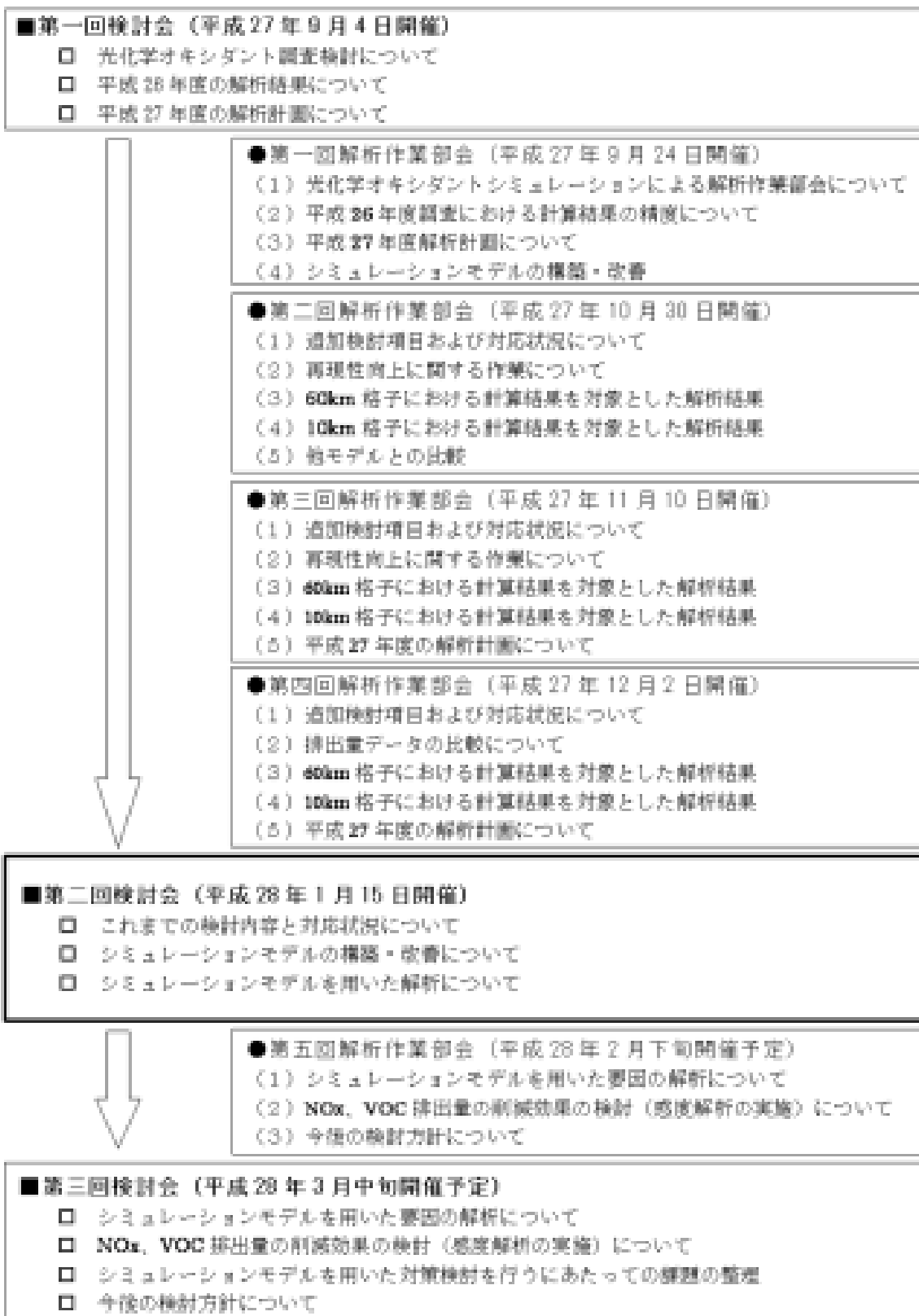


図 3-1 作業部会の開催状況および今後の予定